

## 本号の主要記事

- 第2回全国理事会
- 茨城大会決算報告
- 事務職員研修会
- 学校組織マネジメント研修



第190号

平成25年1月1日発行

全国公立高等学校事務職員協会

<http://zenjikyō2.jp>

事務局：東京都立小山台高等学校

電話 03-3714-8155

東京都品川区小山台 3-3-32



世界遺産・雪の白川郷 (提供：岐阜県)

新年のごあいさつ

☆☆☆ ただ ひたすら

前向きに 努力 します ◇◇◇

全国公立高等学校事務職員協会 会長 原 とき枝



全国公立高等学校事務職員の皆様 明けましておめでとうございます

今年こそは、穏やかな日々が過ごせる1年になることを願ってやみません。

私の愛読書は、時代小説で「佐伯泰英」のシリーズ物です。発刊後すぐに読むのがもったいないと思いつつ一気に読んでしまいます。特に通勤電車の中では、時代小説に夢中なので、周りのことを気にすることもなく、あっという間に1時間が過ぎてしまいます。1日の内で、1年の内で、好きなことに夢中になれる時間を持つことがいかに大切であるかを実感しています。

さて、今年の全国研究大会は、岐阜県岐阜市で7月25日から2日間行われます。テレビや新聞で岐阜県の話になると、気になって見てしまいます。今から楽しみです。

そして、全国公立高等学校事務職員協会の歴史も66年目に入りつつありますが、ますます厳しい状況です。各都道府県市においても、さまざまな事情により会の存続が危ぶまれている事務職員会もあります。

このような状況の中で、全国協会は、現状をしっかりと受け止め、原点に返り、会の目的でもある学校教育効果の進展に寄与できるように前向きに努力してまいります。

平成24年度

## 第2回全国理事会 報告

期日：平成24年11月22日（木）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

平成24年11月22日（木）、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）において第2回全国理事会が行われ、全国から都道府県市協会長が参集した。

理事会出席者は、協会役員を含め総勢67名。以下のとおり全国理事会の概要を報告する。

### 報告事項

#### ○協会の活動状況及び情勢について

会長より、理事会資料の「全国理事会議案書」に基づき平成24～25年の主な活動内容の報告と今後の活動予定についての説明を行った。

来年度から3支部ずつ訪問する計画を立てていることが伝えられた。

#### ○第65回全国研究大会の決算報告等について

藤田実行委員長より全国研究大会（茨城大会）の決算報告と参加者の集計結果の説明を行った。参加者は872名を数え、当初見込みの800名を大きく上回っている。

（収支決算報告は次ページに掲載）

#### ○第1回全国理事会及び第65回全国研究大会並びに総会について

清水副会長より平成24年7月25～27日の三日間に渡る茨城大会の実績報告を行った。

#### ○全国調査について

広報部長より「平成24年度全国協会要覧」に掲載の全国調査集計結果の報告と、新たな調査項目である電力供給状況、学校再編計画についての説明を行った。

#### ○今後の全国協会会費について

第1回全国理事会で、会費についての方向性を次回理事会で示すと回答したことを受けての報告となった。

会計部長より今後の収支見込み掲載した資料をもとに説明し、検討の結果は現状維持でお願いしたいと結んだ。

#### ○研究大会の発表について

会長より、研究発表の推薦について説明があっ

た。茨城大会から各支部1本、計9本の研究が各分科会で発表されている。今後も各支部1本を目標にするが、支部の事情でどうしても推薦ができない場合には、7～8本の研究発表で大会運営する方法も考えていきたいと述べた。

### 審議事項

#### ○第65回全国研究大会優秀研究発表者の表彰について

研究部長から、最優秀は該当なし、最優秀に準ずるものとして3本を推挙し表彰をする旨の提案があり承認された。

昨年の第2回全国理事会で選考方法について質問があったことから選考方法・過程の説明を行った。特に、審査員である常任理事は全ての発表を録画・録音で確認し、「全国的・今日的・時宜的」「実践的・実用性」「創造性・問題意識」「理論構成・文章構成」「発表技法・その他総合的判断」の5項目について時間をかけて協議を行ったうえで審査を行ったことを報告した。

#### ○第1回全国理事会の日程について

総務部長から、平成25年7月24日（水）岐阜県・グランヴェール岐山での開催を提案し、承認された。

#### ○第66回岐阜大会並びに総会の日程について

吉田副会長（岐阜県実行委員長）から以下のとおり説明があり、承認された。

- ・期日：平成25年7月25日（木）～26日（金）
- ・会場：岐阜市文化センター、じゅうろくプラザ
- ・記念講演：林 正彦氏（国立天文台台長）

### 連絡事項

○全国協会の会費納入について（会計部より）

○協会要覧の配付について（総務部より）

○優秀研究発表者への連絡について（研究部より）

### その他

○山梨県の深澤協会長から、平成25年度4月より休会する旨の報告があった。

今後は事務長会の中で、事務職員の意見を吸い上げていくとのことである。

（小澤）

第65回全国公立高等学校事務職員研究大会収支決算書

収入決算額 9,623,589 円  
 支出決算額 9,623,589 円  
 差引残高 0 円

【収入の部】

(△：減額 単位：円)

科目	目	予算額	決算額	増減	備考
会費		3,200,000	3,488,000	288,000	参加費4,000×872名
負担金		6,662,170	6,034,803	△ 627,367	協会本部 4,000,000円 関東各都県協会 1,260,000円 (群馬県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、山梨県) 茨城県協会拠出金 774,803円
補助金		100,000	100,000	0	大会助成金(公益財団法人日本教育公務員弘済会)
雑収入		1,830	786	△ 1,044	預金利息
合計		9,964,000	9,623,589	△ 340,411	

【支出の部】

(△：減額 単位：円)

科目	目	予算額	決算額	残額	備考
大会準備費		2,164,000	2,607,064	△ 443,064	
大会準備費	旅費	1,554,000	1,579,427	△ 25,427	実行委員会打合せ等旅費
	会議費	450,000	799,371	△ 349,371	実行委員会会議費等
	消耗品費	50,000	72,483	△ 22,483	文具他用紙類、インク等
	印刷製本費	50,000	22,315	27,685	大会案内印刷代他
	通信運搬費	30,000	5,830	24,170	各種資料等郵送料
	使用料及び賃借料	30,000	127,638	△ 97,638	実行委員会会場使用料等
大会運営費		7,700,000	7,016,525	683,475	
大会運営費	旅費	250,000	81,330	168,670	講師、パネリスト等旅費
	会議費	600,000	486,335	113,665	全国理事会、常任理事会等会場使用料
	消耗品費	700,000	727,326	△ 27,326	大会運営、受付、記録用消耗品
	食糧費	150,000	247,818	△ 97,818	講師等昼食、お茶代
	印刷製本費	1,200,000	1,090,920	109,080	大会要項、資料等印刷
	通信運搬費	50,000	13,880	36,120	各種資料等郵送料
	使用料及び賃借料	2,400,000	2,443,216	△ 43,216	大会会場使用料、機器レンタル料
	報償費	750,000	625,040	124,960	講師、パネリスト謝金等
委託料	1,600,000	1,300,660	299,340	旅行取扱い業務委託 大会運営業務委託 看板作成等	
予備費		100,000	0	100,000	
合計		9,964,000	9,623,589	340,411	

上記のとおり報告いたします。  
 平成24年10月24日

第65回全国公立高等学校事務職員研究大会  
 茨城県実行委員会 委員長 藤田正一 ㊟

監査の結果、適正に処理されていることを認めます。  
 平成24年10月24日

第65回全国公立高等学校事務職員研究大会  
 茨城県実行委員会 監事 渡辺完 ㊟  
 監事 鴨志田博文 ㊟

平成24年度

## 事務職員研修会

講演：「学校事務職員に必要なスキル」  
～事務長として見た事務職員、  
教頭・校長から見た事務職員～  
講師：埼玉県立羽生高等学校  
校長 野口 馨 先生  
班別討議：9人グループによる班別討議  
及び発表

平成24年11月22日(木)第2回全国理事会の出席者も参加し、野口校長先生による講演が行われ、その後この講演を題材に64名の参加による班別討議が行われました。

野口校長先生は、県立学校事務職員としてスタートを切り教育局・知事部局を経て事務長から教頭、そして現職の校長として2年目になります。

以下は、「学校事務職員に必要なスキル」と題した講演の抄録です。

### 民間人ではないこと

本日は、私のようなものに皆様方の貴重なお時間をいただくことに恐縮しているが、話の内容は私の個人の心情や思いを申し上げるので、あらかじめご了解をいただきたい。

企業のトップが校長になる場合は、企業理念や企業人を育てるというノウハウを持っている。様々な研修会の手法や職員のモチベーションを上げる多様なスキルを持っていると思う。

私は、そのような経験がないので県民の目線で見ようとする。学校内に県民が常駐するという感じである。そして、たとえば、校内規程等でも、校内だけに通用するものではなく、学校の説明責任を果たすことができるよう情報公開を意識したものにするなど行った。現実には少々時間がかかった。

### 教員経験が無いこと

民間人校長は教員経験がないのは当然で、それは事務職出身の私も同じです。学校教育法を見ると、教員は教育をつかさどるので、教壇に立って授業を行う。校長は校務をつかさどり所属職員を

監督することである。

具体的には「教育の管理」、「施設・設備の管理」、「学校事務の管理」、「所属職員の管理」である。「施設・設備の管理」と「学校事務の管理」はこれまでやってきた。

「所属職員の管理」では服務管理の面はいいとして、「教育の管理」こそが最も重要な仕事である。学校の主体・本体の部分、教育活動そのものの部分で、学習指導や生徒指導、進路指導である。そしてこの部分は教頭とスクラムを組んで、教職員とともに実施している。

### 講演の様子



### 校長として

正直なところ「校長」の内示をいただいた時は、頭の中が真っ白になった。何をしたらよいか分からないほど緊張した。その直後の記憶がないほど、その重責を感じたのだと思う。事務長からモーニングが必要になるから発注したほうがいいと言われた。そこから始まるのかと思った。

先輩の校長先生に伺ったら、「どんな校長でも、校長として学校にいることが重要である。」とか、「学校は大勢の教職員と何百人も生徒がいる大所帯。方向転換には時間がかかる。焦ることはない。」との励ましの言葉を頂いた。緊張が和らぐ思いがした。

とはいえ、昨年の4月に着任した当初は、寝ていても目が覚め、そんなとき様々な思いをメモしていた。

たとえば、生徒指導であったり、進路指導であったり、学校を預かる者としてやるべきことは無

限にあるように思われた。

また、事務職員の時に、校長が教員に語る時、指示連絡の時にどれくらい気を使っていたかについては知るよしもなかった。和気あいあいにやっているように見え、学校の方針・校長の経営方針に従って教員をその方向に向けさせる配慮や苦労は気に留めなかった。

校長になって感じるのは、教員には一人一人の考え方やこれまでの実践から得ている教員像がある。行政組織のようにトップダウンで上からの指示では動かないという事を実感した。先生方は学級を掌握し運営し経営している支社長・支店長であるということもでき、教員の思いを集約して進めることも重要なことである。

### 事務職員として

事務職員が『事務処理』をするのは当然で、ただそれだけというならばお話が終わりである。

私は、事務職員は請負業ではないという意識で事務室に勤務していた。埼玉県の場合は、総務事務システムを導入していて、サービス管理や旅行命令は教職員自らが入力している。そして総務事務センターは『事務処理』のスペシャリストの集団です。今後は、学校の現場に勤務する事務職員は総務事務センターのスペシャリストと同じように『事務処理』だけをしていてよいのかということから考える必要があると思っている。

『事務処理』はもちろん業務として行うが、それだけではないのではないのか。それでは何をしたらよいのか。

生徒が学校に行くんだ、学校に行きたい。もっと勉強したい。成績を伸ばしたい。将来の夢を実現したい。そう思えるように校内環境・学習環境を整備することは事務職員にもできるのではないかと思う。

そのためには、勤務している学校をどれだけ知っているかということから確認したい。

たとえば、卒業生が証明書を取りに事務室へ来た時に、トイレを借りて「いつもきれいなんですよね。」と事務室の窓口で言った。伝統的にトイレの掃除は綺麗にやっていて、卒業生はそのこと覚えていた。その時に事務室の対応が「はあ、そうですか」と言うか「トイレ掃除は本校の伝統ですよ。今でも在校生が頑張ってますよ。」とリアク

ションができるかということです。

学校の様子を少しでも知っていれば、窓口対応はスムーズになる。卒業生にしてみれば、「はあ、そうですか」と言われれば、あなたはこの学校の職員じゃないの?と思う。

私が事務長のときは、積極的に学校行事等に参加(見学)し、生徒の様子とか雰囲気、教員の授業の様子を見たりしていた。校長の講話などで熱心に話をしている様子を見て、校長室に戻った時に、「今日の話はおもしろかったですよ。」と言ったり、時には「今日の話は長くて生徒はわかったのでしょうか。」などと言ったこともあった。

### 必要なスキルとは

教員とのコミュニケーションでは、学校のことや生徒のことに関する話題もある。そんなとき勤務する学校のことを知らないと教員と話ができないし、外部への対応では学校にとって必要な説明もできないことになる。さらに課題の認識やそれに基づく具体的な提案は難しくなる。

何年も前から事務職員の学校経営参画と言われているが、何にどのように参画したらよいのかという思いがあった。少なくとも学校や教員や生徒の事を知らなければ参画はできないだろう。だからといって、参画は校長への進言や具申、提案、企画や調整。外部との連絡調整や苦情処理に携わることだといったところで、実際に何をするのか。前提として勤務する学校の方向性や課題を理解していなければ経営参画は難しいと思う。

あわせて、事務室・事務職員の有用感・必要感(性)を示し、事務室がなくなると学校は立ち行かなくなるというくらい学校に関わる意識も欲しい。例えば、学校の現状を認識し分析する。そこから課題を抽出し改善策を提案する。そこには学校に対する『思い』や『ビジョン』が必要なのだと思う。

この『思い』や『ビジョン』があれば教員とコミュニケーションできるし、経営参画の手立ても自ずとわかるようになる。

例えば、入試事務の総轄を事務職員がやる。試験監督と採点は教員に依頼するとして、あとは事務職員が行う。高校を大学入試センター試験会場に貸したことがあるが、仕切っていたのは教員ではなかった。それから、学校の情報は全部事務室

を經由する。これは事務室の情報だけでなく学校の情報はすべて事務室経由とする。経由ではなく事務室が発信してよい。

さらに、すべての会計に事務室が関わる。生徒会費や部活動費。既に実施しているところもある。また、学籍管理や年間行事や教務の一部の仕事を行ったり、委員会に参加し運営をリードする。極端すぎるかもしれないが、学校に関わるということはこのようなことも含まれるのではないかと考える。

### さいごに

学校事務の仕事に対する思い、教員に対する思い、生徒に対する思い、ああしたい、こうしたいという「思い」が出発点のなかかもしれないと考えている。

学校事務は、行政職員が勤めている職場であるけれども、サービスの対象（県民＝生徒）を抱え込んでいる珍しい職場だと思う。さらに高校は、教育活動を通して青少年を育み進路を指導し、社会に巣立たせる重要な使命のある職場であり、そこに勤務する行政職員である。

学校の内部にあって、一般的な県民の目線、保護者の目線で学校を見ることができ、教員を応援し、学習環境を整え生徒達に思いっきり勉強してもらいたい。学校をこうしたい、地域の期待に応えたい、それに一番敏感なのは事務職員であって欲しい。こんなところに事務職員のスキルがあるのかもしれない。それは、何よりも生徒の為に必要なものというところから始まると思う。

現在、社会においては、公務員批判が非常に強いものがある。

しかし、実は公務員の仕事はよく知られていないところがあり、一般行政職といっても、実際にやっている仕事というのは多種多様なものがある。

企業の場合は尺度がある。儲かるか儲からないか、また、雇用というものを守らなければならない。そのような意味で、民間では自分の活動というものを振り返るエンジンがついている。自分の活動というものを常に振り返らなければ生き残れないという改善のエンジンがビルトインされている。公務員のリーダーは振り返るといものがビルトインされていない分、意図的に振り返ると

いうことをやっていかなければいけない。ともすると振り返るチャンスが無いまま過ぎてしまう。

社会がある面これだけ変わってきており、そういう社会の中でどれだけ教職員に対して、振り返るような働きかけをやっていくかが大事である。

公共部門というのは一方大変な部分があり、利害関係者が多いうえに、儲かる、儲からないというものを越えた世界で仕事を展開している。

答えがあるようでなく、いろいろな価値判断というものがあり、いろいろな利害関係に挟まれている。その分多種多様な調整能力やコミュニケーション能力が必要とされている。

さらに、シナリオというものを描かないと納得してもらえない。こういう手立てを打てばこう変わるんだという戦略的な思考、根拠というものを示さないと納得してもらえない。

公務員と言ってもいろいろな仕事があるので、ひとくくりに議論するのは難しいが、それでも公務員というのは非常にコミュニケーション能力とか、調整能力とか、戦略性というものを必要とする仕事であるのは確かである。

(山口)

### 事務職員研修会班別発表の様子



平成24年度  
学校組織マネジメント指導者養成研修（第3回）  
～高等学校事務職員～

茨城県つくば市にあります「独立行政法人教員研修センター」において、124名の参加者による平成24年度学校組織マネジメント指導者養成研修が平成24年11月5日(月)～11月9日(金)の日程で開催されました。

協会からは、指導・助言者として5名が11月8日～11月9日の2日間参加しました。

研修の目的や内容については以下のとおりです。

研修参加者による誌上報告が「学校事務 平成25年3月号」で行われる予定ですので、ぜひそちらもご覧ください。

## 1 目的

学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、校務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として機能することが求められている。

本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。

2 主催 独立行政法人教員研修センター

3 共催 文部科学省

4 会場 独立行政法人教員研修センター

〒305-0802 茨城県つくば市立原3番地

TEL029-879-6613

## 5 受講者

### (1) 受講資格

高等学校及び特別支援学校の事務長及び同等の事務職員であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等として活動を行う予定である者。

※本研修は各地域における研修の指導者の養成を目的としています。

### (2) 推薦人数

都道府県（高等学校及び特別支援学校を設置する市町村含む）から3名以上・各指定都市から1名以上

## 6 研修内容

### ●課題協議1

「教育改革の動向と学校経営」

文部科学省大臣官房審議官（初等中等教育局担当） 高橋 道和

目的：最新の教育改革及び財政制度について理解を深める

### ●課題協議2

「新学習指導要領とこれからの学校運営」

文部科学省初等中等教育局

視学官 永井 克昇

目的：新学習指導要領の理念や内容を踏まえ、今後の学校運営の在り方について理解を深める

### ●演習1

「自校の取組」

国立教育政策研究所

総括研究官 藤原 文雄

目的：他校の特色ある取組について理解する

### ●課題協議3

「信頼される開かれた学校づくりのために」

千葉大学教育学部 教授 天笠 茂

目的：学校評価ガイドラインの改訂の趣旨を踏まえるとともに、学校評価を生かした学校運営の在り方について、具体的な事例を通して理解を深める

## 学校組織マネジメント指導者養成研修の様子



●講義

「学校組織マネジメント①」

東京学芸大学客員教授 藤原 和博

目的：学校組織マネジメントの実際について

●講義・演習1「学校組織マネジメント②」

兵庫教育大学大学院学校教育研究科

准教授 大野 裕己

目的：学校組織マネジメントによる学校業務の

検

討方法について具体的に理解を深める

●事例発表

「学校運営の課題と改善策について」

茨城県立取手第一高等学校

主査兼事務長 荒木克義

群馬県立高崎商業高等学校

事務長 富岡 恒夫

埼玉県立熊谷特別支援学校

事務部長 富田 秀男

目的：特色ある学校運営の事例を知るとともに、

事務長に期待されていることを確認する

●演習2

「学校運営を支える事務長の役割」

目的：学校を運営する上で、事務長に求めら

れている役割について課題をもつ

●講義・演習2

「学校組織マネジメント③」

京都教育大学大学院連合教職実践研究科

教授 竺沙 知章

目的：学校組織マネジメントによる学校業務の

検討方法について具体的に理解を深める

●演習3

「学校運営を支える事務長の役割」

東京都立小山台高等学校

経営企画室長 原 とき枝

茨城県立竜ヶ崎第二高等学校

主査兼事務長 秋田 剛

東京都立向丘高等学校

経営企画室長 清水 丹味子

茨城県立石岡商業高等学校

主査兼事務長 榎 元

埼玉県立騎西特別支援学校

事務長 山口 一夫

目的：学校運営における課題に対する検討方

法の一例を学ぶとともに、事務長の役割

を整理する

●演習4

「学校運営を支える事務長の役割」

目的：学校運営における課題に対する検討方

法の一例を学ぶとともに、事務長の役割

について理解を深める

●研究協議

「研修講師となるために」

文部科学省初等中等教育局

視学官 永井 克昇

目的：学校組織マネジメントに関する研修講

師となるための課題を整理する。

★参加者の皆様、朝から内容満載の研修、夜遅くまでの参加者同士の交流自主研修？（これが楽しいらしいですね。）お疲れ様でした。皆様の研修の成果を活かしたご活躍を期待しております。

（ 榎 ）

学校組織マネジメント指導者養成研修の様子



## 本部活動報告

11/5～11/9 学校組織マネジメント指導者養成  
研修（高等学校事務職員）  
役員派遣  
（茨城県つくば市教員研修センター）

11/21 岐阜大会第1回合同打合せ会  
東京都渋谷区国立オリンピック記念  
青少年総合センター

11/22 第3回常任理事会（全体会）  
東京都渋谷区国立オリンピック記念  
青少年総合センター

○第2回全国理事会の運営について

11/22 第2回全国理事会  
東京都渋谷区国立オリンピック記念  
青少年総合センター

P2～3に概要

11/22 事務職員研修会  
東京都渋谷区国立オリンピック記念  
青少年総合センター

P4に概要

12/14 第4回常任理事会（定例会）  
（東京都品川区小山台会館）  
○第2回全国理事会の反省について  
○事務職員研修会の反省について



福寿草

## 編集後記

新年明けましておめでとうございます。  
今年の干支は「巳」です。  
古くから「蛇は神の使い」として崇められていますが、その逆に執念深いなどマイナス・イメージを同時に持ち合わせています。  
また、私たちの周りでは昔に比べて人とのつきあいが希薄になり、人から受けた恩すら忘れつつあるといわれています。蛇は恩を忘れず、助けてくれた人には恩返しを必ずすると言われていました。  
今年は皆様方と巳のように人の恩への感謝の気持ちと絆を大切にできればと思います。

（有本）

☆全国協会HP閲覧のお願い

全国協会は、情報を随時更新中。是非ご覧ください。

全国協会HPアドレス

<http://zenjikyoo2.jp/>

検索名は、「全国公立」または

「全国公立高等学校事務職員協会」で可能です。

☆「協会ニュース」についてのお問い合わせ、  
ご連絡は次の広報部編集担当まで

●茨城県立総和高等学校

茨城県立古河中等教育学校／富田

TEL 0280 (92) 4551

FAX 0280 (92) 8362

E-mail [tomita.hideaki@mail.ibk.ed.jp](mailto:tomita.hideaki@mail.ibk.ed.jp)

●千葉県立松戸馬橋高等学校／有本

TEL 047-345-3002

FAX 047-346-5330

E-mail [m.armt@pref.chiba.lg.jp](mailto:m.armt@pref.chiba.lg.jp)

●群馬県立大泉高等学校／菊地

TEL 0276-62-3564

FAX 0276-62-7318

E-mail [kiku-ta@pref.gunma.lg.jp](mailto:kiku-ta@pref.gunma.lg.jp)

◎次号の協会ニュースは来年度の岐阜大会関係の特集を予定しています。